

事故の危険、再認識を



山梨県と
農業団体

農作業安全研修会開く

【山梨】山梨県では昨年度、農作業中の死亡事故が4件発生し、すべてが65歳以上の高齢者だった。こうした状況を踏まえ、主力の桃やブドウの農作業が繁忙期を迎える前の4月27日（北杜市）と5月13日（山梨市）に県と農業団体が共催で農作業安全研修会を開き、計100人が受講した。

繁忙期を前に開かれた
農作業安全研修会

法、整備の際の注意事項、部品の交換時期などが説明された。また、熱中症による死亡事故もあることから、こまめな給水や休憩をとることの重要性も説明された。

参加者からは「自分は大丈夫と思わず、注意を払って作業したい」「体調などに合わせて休憩をこまめに取るようにしたい」などの声が聞かれた。

同県農業技術課の熊王広之技術指導監は「普段行っている農作業の中に、事故につながる可能性が常にあるということを再認識してもらえればいい」と話した。事故が1件も起こらないことを願っている」と話した。

地方総合

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS
新聞

全国農業

2022年（令和4年）

6月10日 金曜日
月4回金曜日発行